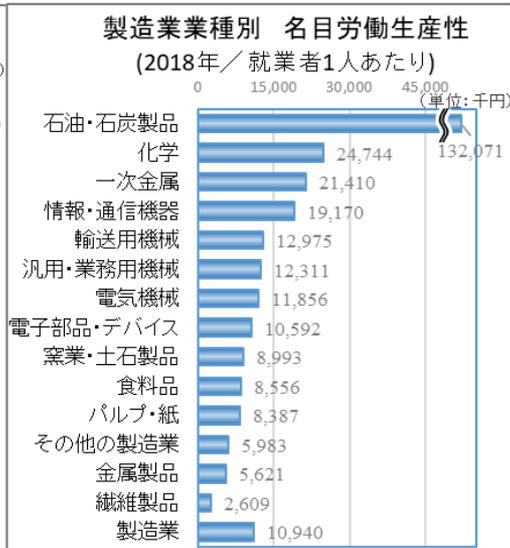
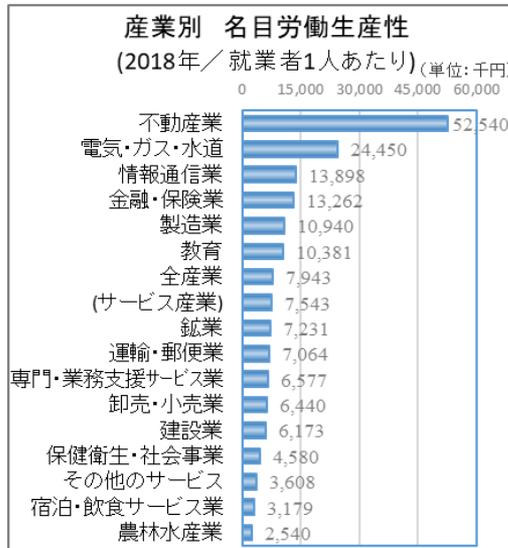
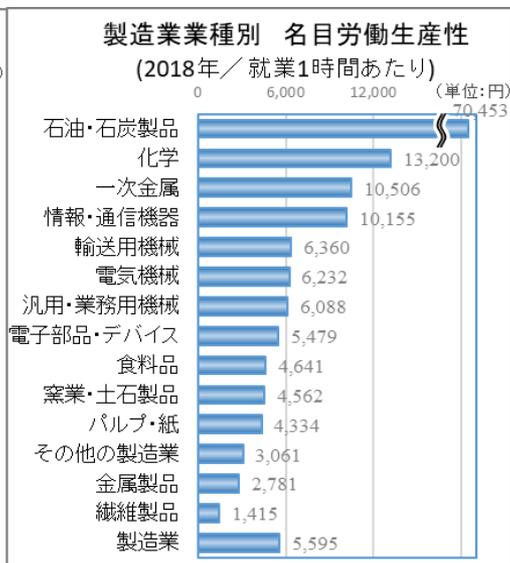
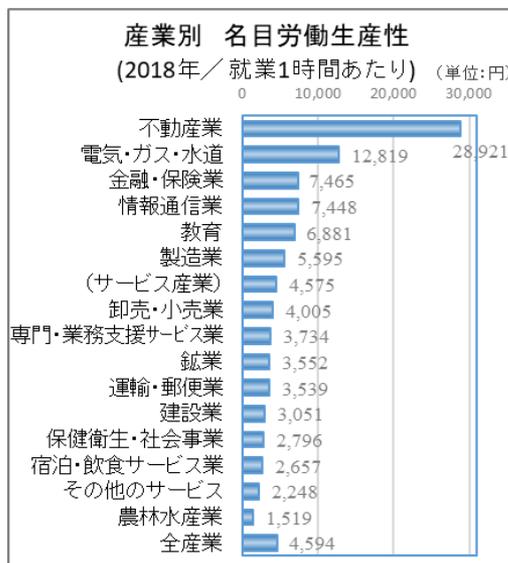


主要産業の労働生産性水準

- 産業別にみると、不動産業や電気・ガス・水道、情報通信業、金融・保険業といった資本集約的な分野で労働生産性が高くなっている。
- 一方、農林水産業や(その他の)サービス業、宿泊・飲食サービス業など比較的多くの人手を必要とする分野で相対的に低くなっている。就業1時間あたり・就業者1人あたりのいずれの指標でみても、こうした傾向がみられる。
- 製造業の労働生産性は5,595円(1時間あたり)、1人あたりでは1,094万円。一方、サービス産業は4,575円(1人あたり754万円)。主要分野をみても、卸売・小売業(同4,005円/1人あたり644万円)、運輸・郵便業(同3,539円/1人あたり706万円)などで製造業を下回る状況にある。



※内閣府「国民経済計算」をもとに日本生産性本部作成 ※サービス産業:電気・ガス・水道,卸売・小売業,運輸・郵便業,宿泊・飲食サービス業,情報通信業,金融・保険業,不動産業,専門・業務支援サービス業,公務,教育,保健衛生・社会事業,その他のサービスにより構成